

たのしい

# 新聞づくり

確かな学力と豊かな心を培う新聞教育

発行：財団法人 理想教育財団

〒105-0004 東京都港区新橋 2-20-15

新橋駅前ビル1号館 TEL.03-3575-4313

編集：全国新聞教育研究協議会（全・新・研）

全国新聞教育研究協議会

## II. 基礎・基本編

### 1. 発行までの手順

#### 新聞はこうやってつくろう！

「子ども達に新聞をつくらせたい!!」

教師なら一度は考えたことがあるはずだ。

しかし、そこから一步踏み出せないのはなぜか。答えは簡単。指導者が新聞づくりのノウハウを知らないからだ。

忙しい学校生活の中で子ども達にいかにして継続的に、しかも教育的な効果のある新聞づくりに取り組ませるか、初めての新聞づくりの指導にかかっている。

子ども達をやる気にさせると共に、学校生活にしっかりと根付いた新聞づくりをさせていくためにも、この章の基礎・基本を熟読し、じっくりと第一号の発行に取り組んでほしい。ここでは学級新聞を例に進めていきたい。

#### (1) 新聞をつくる前に

いきなり新聞を作らせてもよいものができるわけではない。たとえ作れたとしても長続きはしないだろう。新聞を作る前にいくつかやっておかなくてはならないことがある。

##### ①なぜ新聞をつくるの？

新聞を作る目的をしっかりと話し合うことが大切だ。学級新聞なら友達のことを知るためとか、クラスをよくするためなどを子ども達に考えさせたい。学校新聞、学習新聞なども、それぞれの新聞に応じた目的を考える必要がある。

子ども達の新聞づくりへの関心や意欲を高めるために、全国や都道府県のコンクール等で上位に入選した他校の新聞を見せるのも動機付けとして効果的である。新聞をつくる場

面でもぜひ活用したい。

##### ②誰に届けようか。

新聞を誰に読んでもらいたいかについても意見交換を行う。学級の友達はもちろんのこと保護者、校内、地域などに配布することの意味も大きい。届けたときにかけてもらえる言葉が子ども達の制作意欲を高めていく。

##### ③みんなの思いを題字に込めて！

さあ、いよいよ新聞の名前を決めよう。新聞の顔ともいえる題字。子ども達の願いが込められた題字にしたい。題字が決まったら題字のデザイン。全員に書かせてよいものを選ぶ題字コンクールも楽しい。

##### ④誰とどんな新聞をつくろうかな。(発行体制と形態)

学級新聞の目的を考えれば、学級全員で協力して発行するのが原則。生活班を基本に輪番制で取り組ませるのが指導しやすい。発行日を決めることも大切だ。速報性を考えると週1回は発行したいもの。この他に、新聞を作る前に決めておくことは次のようなものがある。

- ・印刷新聞(手書き新聞か、パソコン新聞か)にするか、壁新聞にするか。
- ・新聞のサイズはどうするか。(A4, B4, B5等)縦書きか、横書きか。
- ・紙面を何ページ(面)にするか。
- ・レイアウトはどのようにするか。
- ・シリーズは何にするか。
- ・どんな特集を企画していくか。

まだまだやっておくことは多い。飾り文字の書き方などの技術的なことは、一度に全部を教えようとしても子ども達のやる気をそぐだけ。あせらず少しずつ覚えていかせるのが上達の早道である。

#### (2) 新聞をつくろう!!

新聞づくりの下ごしらえが終わったら新聞づくり開始。初めての新聞づくりなら、全班一斉に第1号を作らせるのもひとつの方法である。誰もが作りたくてうずうずしている時。競い合ってよいものを作るはずだ。

##### ①編集(企画)会議をひらこう

編集会議で新聞の価値は決まるといっても過言ではない。休み時間、昼食の前など空いている時間をうまく活用して内容のある編集会議を開きたい。

- ・どんな記事を探り上げるか。
- ・だれがどの記事を担当するか。
- ・レイアウトはどうするか。
- ・どの記事をどこに載せるか。(新聞用原稿用紙を活用すると便利!)
- ・取材の方法はどうするか。
- ・原稿の締め切り日、発行日の確認をする。

##### ②新聞は足で書け!!取材に出かけよう

机上で記事は書けない。取材をして、事実を確実に捉えることが必要である。インタビュー、アンケートなど記事の内容によって最も効果的な取材方法を選ばせることが大事である。普段から学校や学級の出来事に関心をもって記事探しをさせておくとよいだろう。また、デジタルカメラといった機器も活用させたい。

##### ③下書きをしよう

取材メモを基に決められた字数で本文を書く。基本的に5W1Hは入れること、はっきりした、短く分りやすい文章を書くことなどを指導する。読み手を引き付けるような効果的な見出しや飾り文字についても簡単に書かせておくとよい。

##### ④清書をしよう

下書きに赤ペンを入れて指導したら、それを清書させる。読みやすい字を丁寧に書くことが基本。マスいっぱい四角く大きな字を書くと読みやすい字に仕上がる。水性ボールペンで書かせると印刷したときの見栄えがぐっとよくなる。

##### ⑤編集会議で、新聞の原稿を完成させよう

担当者がそれぞれの清書を持ち寄って、新聞を完成させる。誤字脱字、悪口や事実に基づかない記事などがいないか、しっかりと校正させたい。読者を引き付けるような見出し文字の工夫(飾り文字、スクリーントーンの活用)や全体的な白黒のバランスなどを考えて仕上げるようにする。最終的には担当教師の責任で印刷に入る。

##### ⑥印刷をしよう

印刷機の性能が向上し、筆圧の違う鉛筆の原稿でもきれいに印刷できるようになった。上手に印刷するコツは印刷機の性能をつかみ、紙をしっかりとさばくこと。配布数とコンクールに応募するのに必要な部数を合わせて印刷するようにしたい。

#### (3) 合評会が新聞を変える!!

インクのおいがる第1号の新聞が子ども達に配られた瞬間、教室中が歓喜の声で揺れることだろう。どの顔も笑顔、笑顔。しかし、配って終わりではない。合評会(読み合わせ)をして初めて新聞としての価値が生まれるのだ。担当者全員が記事を読み上げ、自分の記事のセールスポイントや感想を述べる。それに対して、新聞のよいところやアドバイスを読み手が伝える。こうすることで、学級に生きる新聞としての価値を持つのである。

(竹泉 稔)



### 3. 割り付けの仕方

～読みやすい紙面を作ろう～

新聞を作るに当たって考えることは、読みやすく、わかりやすく、魅力的な紙面にあることである。新聞の一つの紙面にはいくつかの記事が載せられるが、これらを全体のバランスを考えながら配置する割り付け（レイアウト）の仕方によって紙面が変わってくる。記事をどのように入れるかによって、読みやすい紙面かどうかが決まるので、割り付けの基本的方法やタブーを知っておくことが大切である。

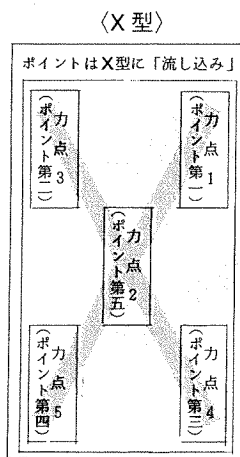
#### (1) 割り付けのポイント

- ① 題字を入れる場所・大きさを決める。
- ② 価値の高い記事を第一面のトップに置く。
- ③ 紙面が複数になるときは、紙面の性格をはっきりさせ、関連する記事でまとめる。
- ④ 記事の内容（むずかしいものとやさしいもの）のバランスを考えて配置する。
- ⑤ 見出し、写真・イラスト、カコミやタタミなどを基本の形にあてはめて考える。
- ⑥ 見出しや写真・イラストは紙面の下にいくにしたがって小さくする。

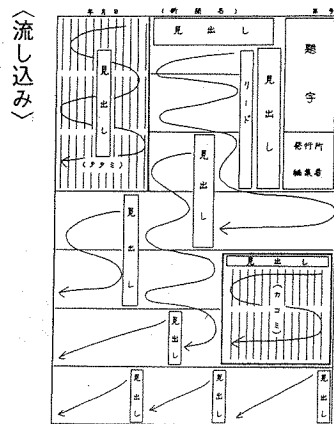
#### (2) 知っておくとよい基本型

##### ① X型（流し組み）

紙面構成の基本的な方法である。見出し、写真・カットなど目を引き付ける「力点」を対角線上（X線型）に置き、記事は重要な順に上から下へ流す。この型は紙面が読みやす



く、見出しや写真・イラストで変化をつけることができる点が良い。



※カコミ記事・タタミ記事を活用しよう。X型（流し組み）の紙面で定型・定位置に扱う記事で紙面に安定感を与える。

#### ア. カコミ記事

記事の上下左右を罫線で囲んだもの。左肩から右下に配置されることが多い。他の記事から独立したもの、シリーズものなどに利用するとよいが記事の量はあまり長くないようにする。罫線の工夫で雰囲気を変えることができる。また、カコミ記事には段ケイを入れない。

#### イ. タタミ記事

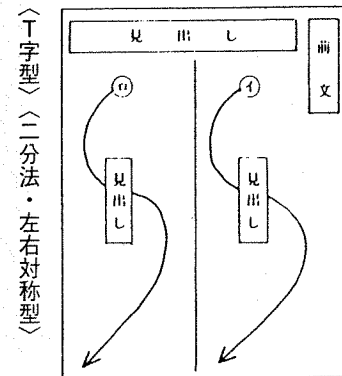
片側を（ときには両側を）罫線で区切り、他の部分と区別した記事である。紙を折りたたむように仕切られているのでタタミ記事といわれるので、左肩に置くとよい。シリーズ、論説・意見記事に利用することが多い。

#### ② T字型（二分法・左右対称型）

2つのものを対象的に並べ内容を強くアピールする方法である。紙面の一番上に横書きの大きな見出しを置き、それを支えるよう

に、中央に縦見出しを置く。一面のトップで特集記事として、また見開きのページで使うと、すっきりとまとまりしかも迫力のある紙面になる。

二分法や左右対称型では、紙面を縦長に二分し、見出しや写真・カットも対称性を意識して配置する。意見の比較や内容の比較など2つの異なる意見を並べることにより問題の理解を深めることができる。記事だけではおもしろ味がなくなるので、見出しのほかに写真やイラストまた、コラムなどで変化をつけると読みやすい紙面になる。

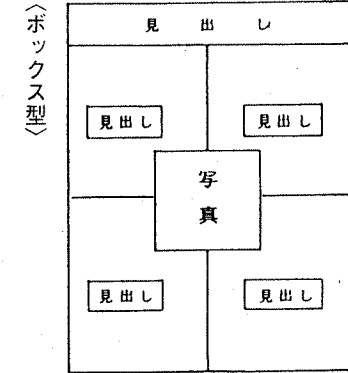


#### ③ ボックス型（区画組み・箱組み）

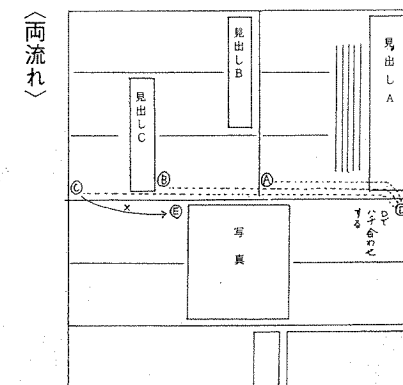
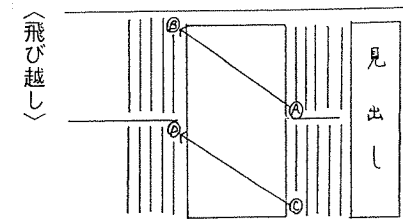
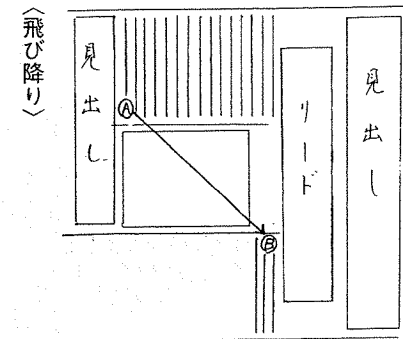
用意された区画の中に、入れたい記事をあてはめていく方法で、紙面の安定・バランスがいい。記事の量がわかりやすく、切りばり方式で分担して作業ができる点が便利。また見出しを上置き、写真・イラストを中心にし、箱を区切るように記事の位置を決められるので、記事の数によって箱を増やせばよく、割り付けがとて楽にできることが利点である。

#### (3) 割り付けのタブー

読み手に「読みやすく」「わかりやすく」するためにいくつかのことに注意しよう。いずれも、文のつながりが不明な例である。



割り付けのタブーの例



(神尾啓子)

#### 4. 取材と記事の書き方

新聞の文章は「短く書け、すれば好んで読まれる。はっきり書け、すれば人は理解する。絵で描いたように書け、人はこれを記憶する」と言われる。

新聞記事は、ある出来事・催しの事実をいろいろな人たちに素早く知らせるもの。したがって、記事内容は、公平かつ客観的に、しかも読み手の立場を考えてわかりやすく、具体的に書かなければいけない。

そして、記事を書くときには、次の「3つのC」に心がけることがよい記事にするための基本だ。

Concise：簡潔で読みやすい文章

Correct：真実性と正確性をもった文章

Clear：やさしくわかりやすい文章

大切なことは、主語と述語をはっきりさせ、間に修飾語を入れすぎないこと、主観を入れず客観的に書き進めることである。

##### (1) ニュース記事の書き方

###### ①記事は逆三角形に

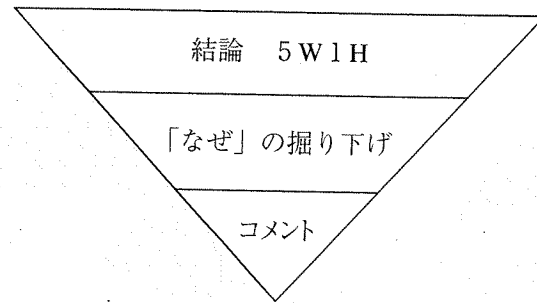
学級・学校で起こった出来事を、より速く正確に読者に伝えるのがニュース記事。

これは、序論・本論・結論の順に書くのではなく、結論（一番大切なこと）から書き、次にいきさつなどを書いて最後に補足するといういわゆる『逆三角形型』に組み立てる。これには、記事が長い場合は短くしやすいという利点もある。

###### ②Why（なぜ）を掘り下げる

5W1H、この6つの要素は、いわゆる「結論」の部分にあたるが、新聞の記事には必要とされている。しかし学校新聞の最大の特徴は、作り手と読み手、情報の発信者と受

信者が同じ立場であるということだ。つまり、何かの行事の記事でも何かの事件・事故の記事でも、読み手である生徒はほとんどその内容を知っている場合が多い。そこで大切にしなければいけないのは、「Why（なぜ）」の部分だ。記者は、そのことが「なぜ」起こったのかを取材し、記事を深める。なぜガラスが割れたのか、なぜ野球部が優勝できたのか、なぜ執行部はあいさつ運動をしているのか、ここを掘り下げることにより、読者にとっておもしろい記事になる。「学校新聞は『なぜ』の文化だ」と言われる所以はそこにあるのだろう。さらに、そのことが、自分たちの学校生活にどう影響していくのかという視点をもって記事を書けばより深まる。



記事の逆三角形型

##### (2) 論説、解説等の意見記事の書き方

読者に訴えたり考えさせたりする意見記事は、まず、事実の正確な把握、分析が必要で、記者の主観だけでなく、よく調べ、いろいろな人の意見を聞くことが重要だ。ここで大切な原則は、1Y2Tである。

Today『今日』

□現在、起きたできごとは

Yesterday『昨日』

□過去にどんな原因があって

Tomorrow『明日』

□今後に、どんな影響を及ぼすか

この原則は、単に記事の書き方だけでなく、考えを組み立てる上でも大切な要素となる。

##### (3) 伝えたいことを明確に

生徒の記事を指導するときのポイントは、「読者に何を伝えたいのか」を送り手である記者によく聞き取らせることだ。今の現状を、この新聞記事によってどう変えていきたいのか、記者の読者（集団）への願いを「記事問答」によって明確にしてやるのが指導のポイントになる。この点を押さえることによって、配った瞬間に風が起るような新聞になるだろう。

生徒と記事内容を問答している中で、生徒の考えが少しずつ明確になり、頭の中にある霧が晴れていく。発問は

「この記事で何が言いたいのか？」

「この記事によって読者にどう変わってもらいたいのか？」

「見出しを付けるとしたら何？」

などで、指導者のテクニックが一番光る所だと思うし、生徒の成長が手に取るように分かるので、支援することの喜びと感動が沸き上がる瞬間である。

指導者としてはすぐに自分で記事を直したいところだが、そこは我慢。あくまでも生徒自身で記事を練り上げさせることが大切である。その試行錯誤的な学習が、主体的に問題を解決しようとする力を育てていく。

##### (4) 取材方法と心構え

###### ①取材は足を使って

足を使うということは、自分の目で見、耳で確かめ納得した上で取材することだ。

問題点がどこにあるのかを見つめる視点を忘れず、「読者を記事に引き込んでみせる」という気持ちを持って取材することが大切。特に注意したいことは、相手に失礼な間違いや、数字、場所などの間違いで記事全体の信用を失うことがないようにすることだ。また、公平を心がけ、うそは書かないことや、自信をもって訴え、記事に責任をもつことも大切だ。さらに、ニュースを集めるアンテナを高くしておくことも必要である。

###### ②一番知っている人に聞け

取材の中心はやはりインタビューだ。これは、記事が生き生きし、みんなの顔が見える新聞づくりに役立つ。そこで問題となるのがだれにインタビューするかである。生徒は、自分の親しい身近な人から情報を集めようとするが、それでは生きた情報は得られない。鉄則は、「インタビューが一番知っている人に聞け」だ。そのできごとを一番知っている人を捜し出してきくことが大切。書き方としては、会話しているように書くのがコツで、周りの雰囲気も書くと迫力が出てくる。

#### 取材の留意点

- ①事前に相手の都合を確かめる。
- ②相手についての予備知識を得る。
- ③質問事項を整理しておく。
- ④メモは要点をとらえて。
- ⑤聞き上手になる。
- ⑥固有名詞、数字などは聞き直す。
- ⑦できた新聞は必ず届ける。

以上がポイントだが、一人よりは複数でインタビューした方がより確実だ。

(嶋 修)

## 5. 整理と発行

### (1) 整理の仕事

一般の新聞では、この「整理」がとても大切で、取材記者（記者というふうには取材記者のことをいう）が書いたさまざまな原稿は、デスクが手を入れたあと「整理部」に回される。ここで割り付けを考えながら、記事は取捨選択され、記事もきざまれ、見出しをつけられます。料理に例えて話すと、記者が記事を書き上げても、それはまだ素材にすぎず、これをどのように料理し、読者に提供するかは、素材のよしあしと同じくらい大切なことである。

どんなよい食材を使った料理でも、コックや板前の腕一つによってうまくもなればまずくもなるのである。

この料理人の仕事が「整理」である。整理記者は、料理に仕上げるために、包丁で料理の材料を切ったり、煮たり、焼いたり、炒めたりする。料理に必要な素材はボツになったりもするわけである。さらには、出来た料理は、いくつかの皿に盛りつけて客の前に出す。見た目にも食欲をそそるような、お客が喜んで食べてくれるように努力するのが料理人の仕事といえる。

学校新聞や学級新聞での整理の仕事は、一般の新聞における整理部の仕事とは、少し異なる。

料理に例えれば家庭料理である。レストランの料理より家庭料理が劣るというわけではありません。日々食べる料理が家庭料理である。自分たちで、家庭菜園で育てた野菜やスーパーで買った材料を元に料理を仕上げます。すべて1人で行うし、最初から料理のメニューは決めてから材料を揃える。

新聞に戻しますと、企画会議で決まった割り付け・内容に添って取材し、原稿を書き上げる。それを持ち寄って「編集」を行うが、割り付けは多少手直しする程度である。

整理の仕事は、原稿整理から始まる。これは「編集会議」の重要な仕事である。

#### ①原稿を選ぶ

・みんなで協議しながら、取り上げる価値があるかどうか、企画会議できめたねらいに合っているかどうかによって選ぶあるいは手直し、書き直しを行う。

#### ②原稿を直す一書いた本人より、他の複数の

人が見たほうがよい。

・誤字や脱字、当て字。

・当用漢字にある字か。かな使い、句読点。

・慣用句などの使い方の間違いはないか。

「おっとり刀」「情けは人のためならず」などは間違った使い方をする人が増えている。

・意味不明、難解な文章やことばはないか。

・5W1Hなどの記事の要素が抜けていないか。

・内容に間違いがないか。特に、数字や人の名前には注意する。数字は1字あるいは1桁違ったら大変なことになる。電話番号の1字違いで人の迷惑にもなる。

・もっと簡単・簡潔に表現できないか。だからとした文章やいいまわしの難しいものはすっきりとした文章にする。

#### ③見出しを付ける

見出しは写真とともに、その紙面に読者を引き付ける役割を担っている。その記事を生かすも殺すも見出しで決まってしまうといっても過言ではない。

見出しの働きには次の4つがある。

ア 記事の内容の大事なところを一目で読者

に分からせる。

イ 見出しの大小で、ニュースの価値を知らせる。重要度の高い記事は見出しを大きくとる。

ウ 読みやすい紙面をつくる。

エ 読者に、読みたいという意欲をを起こさせる。

見出しの役目で、最も重要なのは、記事の内容の要点を表現することだがそのつけ方をまとめてみる。

・記事の主眼点をつかみ簡潔に表現する。一見出しになりそうな箇所を数箇所印をする。それらをまとめる。

ボランティア活動をしよう⇒動き出したボランティア活動

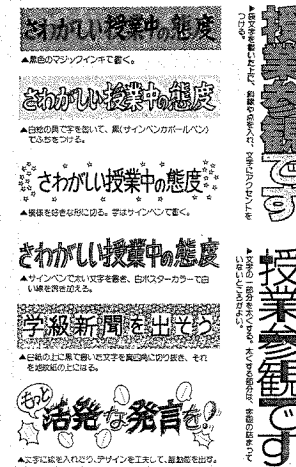
・短く具体的に表現する。

一見出しの字数は8字から10字にする。本見出し8字、ソデカタ見出し10字が基本。

・漢字ばかりはさける。

生徒総会無事終了⇒生徒総会、議事はすべて可決

・同じ品詞止めならないようにする。同じ言葉の重複も避ける。



見出しの言葉も大事だがそのデザインも重要。1面全体の中でバランスを考えて作る。

◎さまざまな字体を工夫（袋文字、影付き、白抜き、斜体など）

◎筆記具を使い分け、文字の変化を出す。（クレヨン、筆ペン、サインペンなど）

◎スクリーントーン、地紋などを使う。

パソコン、ワープロでつくる新聞でも見出しに手書きの部分を入れると変化が出てよい。

### (2) 印刷・発行

印刷・発行の前に、手づくり新聞では、版下作成があるがここでは省略する。印刷・発行前の最後の大事な仕事が「校正」である。整理の手順と同じことをもう一度行う。原稿と照らし合わせることは勿論だが元に戻って確認することも時には必要である。人名、電話番号、日付は特に注意する。見出しの大きな文字にも注意する。

#### ①印刷

印刷は慌ただしい朝よりも、配布前日の放課後に行う。印刷数は、児童・生徒数プラス保存用と先生用、コンクール出品用、記事を書いてくれた人や取材に協力してくれた人の分などを含めて少し余分に刷る。

#### ②配布

新聞の発行日はこの配布日と一致させるとよい。制作担当者や新聞委員が直接学級や先生まで届けるとよい。

#### ③合評会

生徒の反響やモニターの意見などを持ち寄って、合評会・批評会を開く。よかったところや工夫した方がよかった点、感想などを具体的に出し合い、今後発行の新聞に生かしていく。最後に、次号あるいは次々号の企画について簡単に話し合う。（鈴木伸男）